

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホーム ほなみ家		
所在地	山形県東田川郡庄内町余目字四ツ興野123		
自己評価作成日	令和4年 8月 3日	開設年月日	平成 22年 10月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
 基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 4年 9月 7日	評価結果決定日	令和 4年 9月 26日

# (ユニット名 喜々 )

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して過ごせるよう、介護、看護、医師、ご家族で連携し、サービスを提供している。利用者様本位で物事を決定し、その人らしさを大切に個々に合わせた生活や趣味を継続して行い、自分らしい生活を送って頂けるよう支援している。コロナ禍ではあるが、感染防止対策を十分に行った上で外出レク等を行い、ご家族様との関係性を大切にしている為、面会も感染防止対策をしながら行って頂いている。職員は研修会に参加する等資質向上を目指しており、笑顔で気持ちの良い挨拶を心掛け、利用者様に寄り添い、穏やかに過ごして頂ける環境づくりに努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者一人ひとりの思いや気持ちに寄り添い地域のつながりを大切に家庭的な雰囲気の中できめ細やかな支援をしその人らしい暮らしを支える」という理念を実践するため毎年施設目標とユニット目標を掲げ、職員が普段のケアを振り返り自己評価を行い、人事考課表にその目標への取組や達成具合を記載し、代表者や管理者が評価することで理念の実践と共有に繋がるとともに、各職員のスキルの向上に繋がっている。町の事業である「認知症サポーター講座」への協力や、「高齢者安心おかえり登録事業」への協力など事業所の人材や経験を活かし、地域貢献にも力を入れている。感染症対策もあり閉塞した生活が続いている中でも、各種クラブ活動など新たな取り組みも始められ、刺激のあるメリハリのついた生活になるよう工夫している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関、スタッフルームに理念を掲示し、常に念頭に置きながらサービスの提供を行っている。利用者様一人ひとりの気持ちに寄り添い、会話やコミュニケーションをかかす事無く、理念に沿った支援を日々実践している。	理念の実践と共有のために、毎年施設目標とユニット目標を掲げ、職員が普段のケアを振り返り自己評価を行い、人事考課表にその目標への取組や達成具合を記載し代表者や管理者が評価することで、理念の共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為、慰問等地域の方が参加する行事は行えていないが、防災訓練や近隣で散歩した時等に挨拶・会話をする等の交流を図っている。また、今後コロナの状況を見て行事の規模の縮小や少人数での交流も検討している。	感染症対策もあり従来のような取り組みは出来ていないが、地域行事の文化祭への出品等は変わらずに取り組んでいる。地域住民の避難訓練への参加も見られる。事業所の経験を活かし、町の事業である「認知症サポーター講座」への協力や、「高齢者安心おかえり登録事業」への協力など地域貢献も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染防止の為、残念ながら地域との交流は自粛しているが、管理者が認知症サポーターに参加し、地域の方へ向け認知症への理解を深める活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行い、現在の利用者様の状況やサービス提供内容等の報告を行い、参加者の方々の意見を伺いサービス向上に活かしている。	自治会長、地域代表、包括職員、町職員を交えて2か月に1回開催されている。感染症対策のため文書による開催が多いが、6月には対面での会議が行われている。事業所からは状況報告、行事計画、ヒヤリハット等が報告され、前回の目標に掲げられた、「高齢者虐待・身体拘束防止の自己点検」についての報告も実施されていた。委員からは見取りや感染症対策等の意見が表され、サービスに活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて町へ報告・連絡・相談を行なう事で協力関係を築いている。その際、意見やアドバイス等を頂き利用者様の満足度の向上に努めている。	運営推進会議での報告や、町の事業である認知症サポーター講座等への協力など連携を大切にしている。個別の問題等は担当窓口と相談し、問題解決に向け取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束防止委員会があり、定期的に勉強会を行い、スタッフ全員で内容を共有し、拘束について正しく理解できており、身体拘束の無いケアを実践している。委員会では定期的に会議を開催し、拘束にあたるケアがないか振り返りを行い話し合っている。	身体拘束防止委員会が2か月ごと開催され、点滴の際の対応や危険防止のためのセンサーの設置の可否など話し合われている。半年ごとの自己評価表により職員が自分のケアを振り返り不適切なものがないか確認するとともに他の職員のケアも評価し話し合うことで虐待や身体拘束など無いよう取り組んでいる。外出したがる利用者には、会議等で行動パターンを共有し所在確認や見守ることで不必要な鍵をかけないで過ごせるよう工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないことがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり、定期的に会議を開催し、不当な対応がなかったか話し合っている。また、年2回自己チェック表やアンケートを実施し、自らのケアの振り返りを行うとともに事業所内で虐待がないように注意喚起を行い防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適切な支援ができるように研修会に参加し、復命書等で内容を共有している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約前の相談の時点で十分な説明を行っており、契約や解約は理解・納得をして頂いた上で終結に至っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会時や電話時にご家族様に質問や意見、希望がないか伺い、意見や質問等がある時はその都度対応し反映できるようにしている。ご家族様が面会に長期間来れない状況でも管理者が密に電話連絡を行い、希望等を伺うようにしている。	毎月利用者の担当者から日々の様子のお便りを送付している。面会等が難しくなっているが、管理者はなるべく電話等でコミュニケーションを図り信頼関係を大切にしている。前回の目標達成計画に従いケアプランの見直しの際、家族から積極的に意見等聞き出す取り組みを行い、意見等表しやすい環境を作っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ・ユニット会議時に意見や提案を出し合ったり、代表や管理者と個別面談を行い、運営に反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が代表に話しやすい環境であり、話に耳を傾けてくれる。また、職員個々の勤務希望や勤務状況を把握しながら職場環境の整備に努めている。半年に一度、自己評価表を提出し、目標や実績について報告を行っており、評価の参考になっている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については必要に応じて個別に割り振ったり、法人内の研修は外部講師を招いて行っている。	代表者や管理者が職員のユニット目標・自己目標への取組状況等を重視した人事考課表を評価することで、職員のケアの実際や力量の把握が行われている。職員を職責や希望に沿った外部研修へ派遣している。年3回の研修では受講者全員のアンケートが検討され、研修の質を高めている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍であり、現状、相互訪問や職員間の交流はあまりできていない。会議や研修を通してグループ内等での交流は行っている。	認知症サポーター講座による他事業所との交流や、ケアマネ連絡協議会、介護サービス事業者連絡協議会等の参加による情報交換や交流を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるように不安に思う事等、利用者様から聞き取りを行い、信頼関係を築けるように努めている。こまめな声掛けで話しやすい雰囲気づくりを心掛け、本人の訴えを記録に残し職員間で共有している。本人の思い、ご家族様の思いを共有しサービスの提供に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の手続きの面談で管理者とご家族様が話し合い、要望等を伺っている。面会や電話連絡時、要望等を伺ったり、近況等をこまめに報告を行い、話しやすい環境づくりに努め、信頼関係を築けるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況等を見極め、その方に合ったサービス、支援を職員間で話し合い、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除等、一緒に家事を行うことにより、共同生活をしているという意識をお互いに持つようになっている。また、利用者様同士の関りが持てるよう、スタッフが介入したり行事を多く行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日頃の様子を説明したり、毎月担当者をご家族様にお便りをで近況を報告している。電話連絡や面会時に現在の課題等について相談し、ご家族様と協力し本人に合ったサービスの提供に努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍においても、極力面会は感染防止対策を行った上で実施している。また、面会時は会話が弾むよう支援している。電話での会話や馴染みの美容室等へ出掛ける機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や利用者様同士の関係を理解・把握し、人間関係が良い状態でいられるよう見守り、関わり合えるよう努めている。トラブルになりそうな時は早めに職員が介入している。家事等は利用者様同士が協力し合い、利用者様同士でコミュニケーションをとれるよう間に入り交流できるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が相談等を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリングにて利用者様の思いや希望を傾聴し、意向に沿えるように努めている。ご家族様からも協力して頂いている。	こまめな声掛けや話しやすい雰囲気作りを心掛け、利用者の思いや意向を聞き取るとともに、言葉にすることが難しい人にはしぐさ等から意向の把握に努めている。センター方式を一部取り入れたアセスメントを6か月ごと見直すことで、利用者をよく理解し、本人本位の意向の把握に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様、ケアマネージャーからの情報を基に生活歴や趣味等を把握し、今現在の状況をみて自分らしい生活ができるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身の状況を把握し、職員間で情報を共有している。毎日の生活状況の詳細を記録に残し、情報共有を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎日変化する利用者様の心身の状態を職員間で報告、連絡、相談を行い、会議で話し合って意見交換を行い、アセスメントやモニタリングに活かし、必要に応じたケアを提供している。</p>	<p>3か月ごとモニタリングを行い、計画の実施状況や、目標の達成状況进行评估している。6か月ごとにアセスメントを再評価し、前回の目標達成計画に従い家族からの意見を引き出し職員間で話し合い、計画の見直しを行っている。利用者の好きなことやリクリエーション等を計画に位置付け、その人らしい暮らしを支える計画の作成に努力している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員間で情報共有する為にも、統一した記録の書き方をしている。その際、日々の詳細を記録し、利用者様の情報や気づきを申し送りや連絡ノートに記載し、職員間で共有し定期的にケアプランの見直しを行っている。</p>			
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人の心身の状況を考慮しながら、安心して過ごせる環境づくりに努めている。コロナ禍ではあるが、できる限り地域の行事に参加、出品し、生きがいをもって楽しんで頂けるよう支援している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎月往診があり、定期的に診て頂いており、事前に何か変わった事や確認をしなければいけない事があれば連絡をしている。心身に特変があった際も、都度相談、受診している。</p>	<p>協力医療機関の往診が毎月あり、家族や利用者の安心に繋がっている。従来のかかりつけ医との連携も大切にしており、通院は原則家族にお願いしているが、事業所から利用者の心身の状況が報告され、家族からの診療結果を聞き取り記録することで、医療に関する情報の共有が図られている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>変化があった時だけではなく、日頃の状態等を看護師に相談・報告し、対処法や助言を受けている。また、その事を申し送りや連絡ノートに記載し、情報を共有している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>いつ、どのような症状が出たか等、詳細を記録に残し、かかりつけ医や病院側に情報提供している。入院時も病院の相談員と連絡をとり合っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>かかりつけ医とは、いつでも連絡が取れるようになっている。また、必要時に往診や訪問看護に来て頂いている。終末期には今後どのようなケアをしていくのか、医師、看護師、ご家族様、管理者で相談、連携し、支援している。</p>	<p>早い段階から事業所の出来ること等が話され、身体状況の変化に応じて繰り返し協議され方針の共有が図られている。看取りへの取組もあり、実際の経験もある。看取り支援ノートとして事例がまとめられサービスの向上に活かされている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者様の急変時を想定し、定期的に指導者を招いて急変時の対応の仕方やAEDの使用方法等の研修会を行っている。スタッフルームに急変時の対応の仕方が掲示してある。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署の立会による防災訓練を行い、実際に避難の様子を見て頂いている。地域の方も連絡網に入って頂いており、防災訓練にも参加して頂いた事がある。</p>	<p>年2回火災や地震、水害等に対応できるよう訓練が行われている。地域住民の訓練の参加や連絡網への参加がみられる。ハザードマップの確認や備蓄も行われている。</p>		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩である事を意識しながら、言葉遣いには気を付け、その方に合った声掛けや支援をするようにしている。不在でもノックを忘れず、トイレや浴室のドアも開けっ放しにならないよう、プライバシーにも配慮している。</p>	<p>年2回、自己評価表を基に職員各々が自身のケアと他の職員のケアの状況を評価し、不適切なケアや言葉かけ等がなくなるよう職員みんなで話し合っている。接遇の研修も行い人格の尊重やプライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。</p>	
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様が気軽に思いや希望を発言できるような働きかけを心掛けている。常に本人の意思を確認し自己決定した上で支援している。希望を出せる方と出せない方がいる為、表情や仕草で思いを汲み取り、なるべく自己決定できるよう努め、その方に合った支援をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日ごとの体調や気分等の変化がある為、常に本人の意向を確認し、その日の状態に合わせた生活ペースや過ごし方を職員間で相談し支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服をご家族様に依頼し、協力を得ながら衣替えを行っている。本人が希望される化粧品等も使用している。なかなか自分で身だしなみを整える事ができない方もおり、目配り、気配りをしながら、その方に合った支援をしている。入職の際、一緒に洋服を選んで頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好み、苦手な物を聞き取り、行事食などを提供している。また、利用者様の状態に合わせて、食事形態を変更している。野菜の皮むきや盛り付け、食器拭き等々の後片付けを手伝って頂いている。	三食事業所内で調理し、出来る方には調理に参加していただき、音や臭いで五感を刺激しながら、生活感を大切にされた家庭的な食事の提供を行っている。給食委員会が利用者の嗜好調査を行い、希望を取り入れた献立を作っている。季節の行事食やパンバイキング、おやつ作りなど普段の食事にアクセントをつけ楽しみなものになるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが摂取される量・形態・水分量を把握し、一日を通して必要量を確保できているか毎食ごと摂取量を確認・記録している。不足時、栄養補助食品を提供したり、好みの飲み物を提供し、体調管理に努めている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、声掛けや一部介助を行っている。また、本人の口腔ケア後に口腔内を確認し、みがき残しがあれば仕上げみがきを行い、清潔に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記録し、個々の排泄パターンを情報共有し、声掛け・誘導・介助等、その方に合った支援に努め、自尊心に常に配慮し対応している。また、本人の能力に応じた支援を行うことで、できるだけ自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を基に適時の声掛け誘導によりなるべくトイレでの排泄を支援している。必要な方には介護計画に具体的な支援の方法を組み込み、評価を行いながら自立に向けた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防としては水分補給、乳製品の提供を行い、体操や歩行訓練等の運動に取り組んでいる。水分を摂りたがらない方には好みの飲み物を提供し、1日1リットルを目安にしている。その方に合った下剤調整を看護師、医師に相談し、スムーズに排便できるように支援している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回、入浴が行えるよう支援している。曜日は決まっているも、その方のその時の気分を尊重し、曜日を変更し対応している。入浴拒否がある方には声掛けのタイミング等を工夫したり別の職員が声掛けをする等している。入浴中も安全で安楽に入浴できるよう、声掛け、見守りを行っている。	なるべく希望に添えるよう支援している。入浴を好まない利用者には声掛けや誘導の方法を工夫し清潔が確保できるよう支援している。機械浴の設置があり、身体状況に応じて安全が確保できるよう支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通し、一人ひとりの状態を観察しながら休息をとって頂いたりする支援を心掛けている。就寝時は個々のペースに合わせた時間で居室に戻り臥床している。居室内の明るさや室温を考慮し、ゆっくり入眠できる環境づくりに努めている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが処方されている薬の目的や副作用、用法や用量を把握し、様子観察を行い、症状の変化等があれば医師へ状態報告を行っている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の誕生会やドライブレク、行事を実施し、利用者様がより笑顔になれる企画を実施している。天気の良い日は散歩に出掛け、気分転換を図っている。新聞や読書、家事など、その方の今までの習慣や趣味が軽泊いくして行えるよう努めている。書道、合唱、学習のクラブ活動も行っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の移り変わりを感じ取って頂く為、季節に沿ったバスレクを計画し、利用者様の気分転換等の支援を行っている。天気の良い日は利用者様の体調を見ながら散歩の声掛けを行い、施設周辺を散策している。	花見、あじさい、藤の花などの見学のドライブ、少人数のドライブなど感染対策を行いながら外出の機会を作っている。近隣への散歩や施設のデッキでの茶話会など外気に触れる機会も作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や能力に応じ、お金を所持しているが、使用する事はほとんどない。</p>		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者様本人自ら電話をする事は困難な状態だが、ご家族様からの電話に対しては電話口で会話ができるよう、支援している。</p>		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間においては常に美化に注意しており、不必要な物は置かず、各ユニットの壁面にはその月に合い季節を感じられるような装飾を工夫している。また、室内温度・湿度の調整を行い、不快な思いをさせる事がないよう心地良く過ごせるような空間づくりに努めている。</p>	<p>明るい共有空間は、適切な温度・湿度管理が行われ、掃除・整理整頓が行き届き、清潔な環境となっている。室内は落ち着いた色調で統一され、心安らぐ空間となっている。季節を感じられるように草花・手作り創作品などを飾り付けることで、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>	
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルやソファ等、好きな場所で一人で過ごしたり、気の合う仲間同士で自由に行き来し一緒に過ごしたりしている。各自テレビや新聞を見たり、好きなように過ごして頂いている。</p>		
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様の使い慣れた好みの品物を持ち込んで、安心できる居室作りをしている。誕生日プレゼントや、ご家族様の写真を飾ったり思い思いに居室をレイアウトし、心地良く過ごして頂けるよう支援している。</p>	<p>利用者と職員が掃除を行い、清潔な環境づくりに努めている。馴染みの調度品、遺影や家族の写真などを持ち込み、好みの飾り付けを行うことで自宅と変わぬ雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>導線に転倒につながる危険な物がないよう安全な環境づくりを行っている。各所に手すりを設置し、一人ひとりの残存機能を活かし、利用者様のペースに合わせた援助を行っている。トイレや浴室には表示を付けて分かりやすくしている。</p>		